

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320130

研究課題名(和文) 16～19世紀大堰川上・中流域地域社会の構造と変容に関する研究

研究課題名(英文) The transformation of structural connections in the area along Oi-river from upper to middle-reaches over a long duration from 16th to 19th century

研究代表者

坂田 聡 (SAKATA, SATOSHI)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：20235154

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、京都府の大堰川上・中流地域、具体的には丹波・山城国境の広河原(京都市左京区)から黒田・山国・周山(以上京都市右京区)、日吉・園部・八木(以上南丹市)、さらには亀岡市域にかけての広域的な地域をフィールドにとり、16世紀～19世紀という長いスパンで通時代的な考察を試みることによって、当該地域社会の内部における個別の村どうしの関係の実態及びその変容、当該地域社会の内部における個々の村々の共通点と差異及びその変容、個々の村のレベルを超えた当該地域社会全体の構造的つながりの実態及びその変容という諸問題の解明を目指す。そして、時代ごとに分断されている地域社会論の統一的な把握を試みる。

研究成果の概要(英文)：This research has focused on an area along Oi-river from upper to middle-reaches, more precisely, an area from Hirogawara, Sakyou Ward, Kyoto City to Kameoka City. Treating this area over a long duration from 16th to 19th century, it has aimed to reveal the following three points; similarities and differences among each rural communities within this area, the changes of relationships among them, and the transformation of structural connections in the whole local society. By analyzing these points, this research has brought about the substantial results of the comprehensive and diachronic understandings of the local society.

研究分野：日本中世史

キーワード：地域社会論 大堰川上・中流域 山国荘 宮座 由緒

## 1. 研究開始当初の背景

大堰川(桂川)の上流に位置する山国荘(近世の山国郷、現京都市右京区京北地域)は、中世後期から近代にかけての史料が連続して大量に残されているという点で、他に類例を見ない場所であるが、これまで長年にわたり、同地の古文書調査を手掛けてきた研究代表者の坂田は、林業や大堰川での鮎漁といった生業の問題にせよ、宮座や伊勢講・若衆組織・同族組織をめぐる問題にせよ、村人の由緒や特権意識をめぐる問題にせよ、同地よりも上流にあたる広河原でも、下流にあたる周山・日吉・園部・八木・亀岡あたりでも、類似する事例が数多く存在する事実気付いた。それが、「16～19世紀大堰川上・中流域地域社会の構造と変容に関する研究」という本研究の研究課題に思い至った経緯である。

ここで上述のテーマに関わる研究史を略述すると、1990年代以降、日本中世史の分野と日本近世史の分野で、相次いで地域社会論がクローズアップされた。中世史の分野では、本研究の研究分担者である榎原雅治の仕事(同著『日本中世地域社会の構造』校倉書房、2000年)が、近世史の分野では、本研究の連携研究者である山崎圭の仕事(同著『近世幕領地域社会の研究』校倉書房、2005年)が、それぞれその代表的研究としてあげられるが、ここで問題となることは、中世地域社会論と近世地域社会論とが、まったく関連性を持たずに、各々の問題関心の範囲内で研究を進めているという事実である。それは榎原の仕事と山崎の仕事においても例外ではない。

渡辺尚志によれば、中世・近世移行期における地域社会論と、近世・近代移行期における地域社会論こそが、今後の重要な研究課題となることであるが(「近世村落社会論」『日本歴史』700号、2006年)その意味でも、中世地域社会論と近世地域社会論の間に存在する不幸な断絶状況は、地域社会論のさらなる進展を阻む大きな問題点とみなさざるをえない。

## 2. 研究の目的

そこで、本研究では大消費地京都近郊の材木供給地としての共通利害にもとづき、近世には広域的な筏流し組合を組織して共同訴願を行うなど、政治的・経済的・社会的に一定の地域的まとまりを有していた大堰川上・中流域をフィールドにとり、同地域の構造的な特質を明らかにした上で、中世・近世移行期(15～17世紀)から近世・近代移行期(19世紀)にかけての400年間にも及ぶ、その歴史的な変容の実態についても分析を進めることにした。

具体的には、自然環境と生業(林業、鮎漁、自然災害等) 村社会の構成原理(宮座、伊勢講、若連中、株内等) 村人の由緒と特権意識(黒田・山国の有力百姓の由

緒・特権意識と、亀岡の馬路五苗集団が保持する由緒・特権意識との比較検討、幕末における山国の山国隊と日吉・園部・八木・亀岡の弓箭組の比較検討)の3点から、地域社会を構成する個々の村々の共通点と差異を、その時代的な変化にも留意しつつ検討した上で、一定の広域的な地域社会の構造的なまとまりと、こうした地域的なまとまりの時代的な変遷について明らかにする。

## 3. 研究の方法

本研究の研究方法の特色としては、現地調査による史料収集、これらの史料を用いた個別テーマについての研究、個別テーマの研究成果を総合した、本研究全体に関わる結論の提示という3段階を踏んで研究を進めた点に求められる。

すなわち、前半の2年(平成24年度、平成25年度)については、に力点を置き、調査中心の組織体制(全体統括班、古文書調査班、民俗調査班)をとった。具体的には、夏と秋の2回、大堰川上・中流域の古文書調査(関連文書の写真撮影と目録作成)と民俗調査(株内、宮座、伊勢講、神社の献灯銘文に見える若衆組織の調査)を実施した上で、関連史料のリストアップ(古文書調査に関しては翻刻の作業も含む)を進めた。

一方、後半の2年(平成26年度、平成27年度)については、とに力点を置き、研究中心の組織体制(全体統括班、自然環境と生業班、村社会の構成原理研究班、村人の由緒と特権意識研究班)をとった。具体的には、リストアップした史料を用いて、研究班ごとに研究を進めるとともに、最終年度(平成27年度)には、全体統括班のメンバーが中心となり、研究会での議論も踏まえて、当該地域社会全体の特質と、その歴史的な変遷に関して研究を進めた。

## 4. 研究成果

本研究の個別研究テーマのうち、「自然環境と生業」については、⑦研究協力者の水野章二と西川広平が中心となって行った山国荘地域の景観調査、①研究分担者藺部寿樹が進めた材木の筏流しに用いる木印研究、⑨研究協力者吉岡拓が進めた大堰川上・中流域における鮎漁研究などが、その研究成果としてあげられる。このうち①と⑨は、「5. 主な発表論文等」に掲げた。

「村社会の構成原理」については、④研究分担者藺部による丹波国交野荘の宮座研究、④研究協力者千枝大志と研究協力者石川達也による、大堰川上・中流域の村々の伊勢講研究、⑤研究分担者榎原雅治が進めた、大堰川中流に位置する田原桐野牧(五箇荘)内大谷村の村落構造に関する研究、⑥研究協力者多仁照廣、研究協力者上相英之の両名が担当した神社の献灯銘文に見える若衆組織の調査、②山国荘における百姓の家の形成過程を論じた、研究代表者坂田の研究などの成果を

あげることができる。このうち㊦と㊧と㊨の研究成果は、「5. 主な発表論文等」に掲げた。

「村人の由緒と特権意識」については、㊦研究代表者坂田聡と研究協力者吉岡拓による、山国荘地域（山国・黒田）をフィールドとした、有力百姓と天皇・朝廷の関係をテーマとした研究が、最大の成果としてあげられる。この研究において、坂田は主に中世後期から近世前期にかけての、有力百姓の由緒と特権意識の解明を、主に近世後期から近代の部分を担当した吉岡は、山国荘地域の山国隊と、日吉・園部・八木・亀岡の諸地域で結成された弓箭組との対比を中心的なテーマに据えつつ、幕末の各地域における有力百姓の特権意識の異同の解明を、それぞれ目指した。

なお、「村人の由緒と特権意識」に関しては、先に㊩として記した、大堰川上・中流域における鮎漁に関する吉岡の研究もあげられるが、いずれも、「5. 主な発表論文等」に本研究の研究成果として掲げた。

個別の研究テーマに関する研究が当初の予定通りにほぼ進展したのに対し、それを総合して、大堰川上・中流域における個々の村々の共通点と差異、及びその歴史の変容、当該地域社会全体の構造的なつながりの実態、及びその歴史的な変容を解明するという、本研究のセールスポイントに関しては、最終年度（平成 27 年度）に一定の見通しを提示したものの、残念ながら十分には解明しきれなかった。

この残された課題に関しては、現時点においても研究を継続中であり、最終的には、現在、刊行に向けての準備を進めている、本研究の成果をとりまとめた論集（『地域社会の構造と変容』高志書院）において、明確な結論を出す予定である。

最後に、「5. 主な発表論文等」に記した諸業績以外の具体的な研究成果としては、『中央史学』36号～38号誌上に、中世山国荘の荘官（公文）であった鳥居家の中世文書の翻刻を連載した。また、廣瀬家文書（広河原）、西家文書、上黒田春日神社文書、宮春日神社文書（以上、黒田）、鳥居家文書、高室家文書、山国神社文書、護国神社文書（以上、山国）、佐々木文書（日吉）等の文書目録も作成した。

これらの文書目録については、個々の家のプライバシーに関わる記載も含まれていることから、今後の公開に向けて、関係者の意向も踏まえつつ、慎重に作業を進めていく。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

### 【雑誌論文】（計3件）

- ・吉岡拓「近世後期地域社会における天皇・朝廷権威 丹波国桑田郡山国郷禁裏七ヶ村の鮎献上（網役）を事例に」（『恵泉女

学園大学紀要』28号、2016年、査読無、1-25頁）

- ・坂田聡「丹波国山国荘地域の現地調査・その成果と課題」（『民衆史研究』85号、2013年、査読無、11-22頁）
- ・園部寿樹「丹波国交野荘の名主座について」（『山形県立米沢女子短期大学紀要』48号、2012年、査読無、41-58頁）

### 【学会発表】（計6件）

- ・園部寿樹「丹波国山国荘における木印署判について」（中央史学会中世史部会、中央大学、2016年5月16日）
- ・坂田聡「家論に見る14世紀」（山国荘研究会、中央大学、2015年12月21日）
- ・坂田聡「戦国期畿内・近国の百姓と家」（比較家族史学会第57回研究大会、札幌大学、2015年6月20日）
- ・園部寿樹「中世・近世の宮座と家」（比較家族史学会第57回研究大会、札幌大学、2015年6月20日）
- ・榎原雅治「丹波国大谷村佐々木文書について」（山国荘研究会、京都府立ゼミナールハウス、2014年8月2日）
- ・坂田聡「丹波国山国荘地域の現地調査・その成果と課題」（民衆史研究会2012年度大会シンポジウム、早稲田大学、2012年12月15日）

### 【図書】（計3件）

- ・坂田聡「家論から見た一四世紀」（中島圭一編『一四世紀の歴史学』高志書院、2016年所収、165-184頁）
- ・坂田聡・吉岡拓『民衆と天皇』（高志書院、2014年、研究代表者坂田1-83頁、研究協力者吉岡84-217頁）
- ・榎原雅治・末柄豊・村井祐樹『丹波大谷村佐々木文書』（東京大学史料編纂所、2014年、1-74頁）

### 【産業財産権】

出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

## 【その他】

ホームページ等

### 6. 研究組織

#### (1) 研究代表者

坂田 聡 (SAKATA, Satoshi)  
中央大学・文学部・教授  
研究者番号: 20235154

#### (2) 研究分担者

榎原雅治 (EBARA, Masaharu)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号: 40160379

#### (2) 研究分担者

園部寿樹 (SONOBE, Toshiki)  
米沢女子短期大学・日本史学科・教授  
研究者番号: 10202144

#### (2) 研究分担者

岡野友彦 (OKANO, Tomohiko)  
皇學館大学・文学部・教授  
研究者番号: 40278411

#### (3) 連携研究者

松尾正人 (MATSUO, Masahito)  
中央大学・文学部・教授  
研究者番号: 00157265

#### (3) 連携研究者

山崎 圭 (YAMAZAKI, Kei)  
中央大学・文学部・教授  
研究者番号: 60311164

#### (3) 連携研究者

清水克行 (SHIMIZU, Katsuyuki)  
明治大学・商学部・教授  
研究者番号: 40440135